

# 早期水稲「宮崎52号」における高密度育苗技術の評価

収量、品質は慣行苗と同等で、育苗経費は29～50%削減できます。

## 背景・目的

- 使用苗箱数を削減できる省力・低コスト技術高密度播種苗が全国的に普及拡大していますが、慣行苗に比べ株が小さく軟弱気味となることや、欠株が生じやすい点も知られています。
- そこで、移植時期が早く初期生育の良否が収量に影響しやすい早期水稲「宮崎52号」で同技術を検討しました。

## 成果の内容

- 高密度育苗の苗質は、慣行苗とほぼ同等でマット形成も良好です。
- 移植時の苗箱使用数は、高密度育苗は対応移植機使用や疎植栽培により36%～55%削減され、欠株率も目標値の範囲内となり、収量・品質は慣行苗と同等です（表1）。
- 育苗経費試算において、高密度育苗は29%～50%の削減効果が認められます（表2）。

（表1）：苗削減率及び移植精度

	区		苗箱 使用数 (箱/10a)	対照 比 (%)	欠株 率 (%)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )		穂数 (本 /m <sup>2</sup> )	籾数 (百粒 /m <sup>2</sup> )	登熟 歩合 (%)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	対照 比 (%)	農産物 検査	いも ち病
	播種量 (g/箱)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )				+30	+50								
(対)	150	21.2	21.5	100	1.5	287	578	463	285	84.7	22.9	57.7	100	2.7	無
	250	21.2	13.8	64	1.0	288	596	477	288	85.4	22.8	59.7	103	2.7	無
	250	18.2	11.5	53	0.8	255	621	512	305	83.4	22.3	61.5	107	2.9	無
	250	15.2	9.7	45	0.3	198	551	488	317	85.0	22.3	58.4	101	2.4	無

※ データは2カ年試験の平均値

※ 県主要農産物等栽培基準の目標値：欠株率5.0%以下

（表2）：育苗に関する経費

(10a当)

試験年	区		苗箱数 (枚)	種籾 (円)	農薬 (円)	育苗 培土 (円)	労働費 (円)	計 (円)	対照 比 (%)
	播種量 (g/箱)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )							
(対)	150	21.2	21.5	871	2,774	1,527	1,806	6,977	100
平均	250	21.2	13.8	932	1,780	980	1,289	4,981	71
	250	18.2	11.5	776	1,484	817	1,075	4,151	59
	250	15.2	9.7	651	1,245	685	903	3,484	50

※ データは2カ年試験の平均値

※ 労働費(管理時間,労働単価)は宮崎県農業経営管理指針、その他経費はJA販売価格より試算

※ 農薬: ダコニール1000、タチガレン液剤、ルーチンバリアード箱粒剤

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 高密度育苗技術導入、省力化や削減経費での活用が期待されます。
- 普及対象・普及目標：早期水稲（中部、南那珂、児湯、東臼杵南部）・10ha

## 留意点

- 極端な疎植は初期生育での莖数確保が難しくなる可能性があるため留意してください。

関連研究成果カード：2023年度後期 番号 4、関連事業名：大規模経営に向けた稲作技術の確立（県単）

研究期間：2021～2022年度